

総合型選抜

法律学科

1. 指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名・フリガナを記入しなさい。
3. この問題冊子の不ぞろい等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。
4. 解答時間は80分です。
5. 試験終了まで、受験者の退出は認めません。

第1問

次の文章は、アメリカの政治哲学者ジョン・ロールズ（1921-2002）の著作『正義論』の一部を解説したものである。この文章を踏まえたうえで、ABCの会話を読み、各問に答えなさい。

《文章》

ロールズは、「無知のヴェール」という新しい概念装置によって、^①社会契約思想を修正する。

「社会契約なんて虚構だ」という批判がすでにあることを、ロールズは意識している。そして、社会契約思想家たちの言うような、「原始的な自然状態」を想定して「そこで全員がいっせいに社会契約を結ぶ」という論法にはさすがに無理がある、とロールズは認める。

そこを修正してロールズは、自然状態の代わりに「無知のヴェール」という新しい概念を、思考過程の装置として置く。そしてこう問う。「あなたがオギャーと生まれる直前の赤ちゃんだとして、どんな境遇に生まれるかを知ることのできないヴェールをかけられていたら、どんな社会を望みますか」と。

その自分が生まれる社会は、大富豪と極貧者に分かれる社会かもしれない。ほどほどの富者と何とかはできそうな貧者が混在する社会かもしれない。そして自分が生まれる境遇は、金持ちの家かもしれないし、貧しい家かもしれない。そこが「無知のヴェール」をかけられて見えない、と想定するのである。これが、社会契約思想の「原始的な自然状態」に代わるロールズ流の想定である。

そしてロールズはこう推論する。「こう問われた人の多くは、自分が最悪の境遇、その社会ではもっとも貧しい家に生まれる場合を考えて、最も不利な立場の人でも何とかはできそうな社会がよい、と答えるだろう」と。大富豪と極貧者に分かれる社会よりも、富者もほどほどで貧者もほどほどという社会のほうがマシで、自分が生まれる家を前もって知ることができないなら、後者の社会に生まれたいと思うはずだ、と言うのである。

出典：徳永哲也『正義とケアの現代哲学：プラグマティズムから正義論、ケア倫理へ』（晃洋書房、2021年）（出題にあたって一部改変した）

《会話文》

- A「私はロールズの意見に賛成だね。自分がもしとても貧しい家に生まれてしまって、病院にも行けないリスクを考えたら、少くくは平等な社会に生まれたいから」
- B「そうかな。ロールズの意見は、おかしいと思うよ。ロールズが言っているのは、1000万円を %の確率でもらえる権利と、 万円を確実にもらえる権利とがあったら、後者のほうがいいってことだよな」
- A「そのどこがおかしいの？」
- B「1000万円を %の確率でももらえる権利の期待値は、 万円、 万円を確実にもらえる権利の期待値は、40万円でしょ。前者の期待値は後者の2倍。同じように、^②極貧に生まれる心配をするよりも、大富豪に生まれる可能性に賭けたほうがいいのかどうか、計算すればいいんだ」
- A「そうかなあ、Cさんは、どう思う？」
- C「私はロールズに賛成はしないけど、Bさんが言っていることもおかしいと思う」
- A「つまり？」
- C「人生は一度きりだから、何回も試すことはできないよね。Bさんは、飲んだら10億円がもらえる代わりに、50%の確率で死ぬ薬と、飲んででもなにももらえないけど、毒性がまったくない薬を渡されたとき、死ぬ可能性のある薬を飲むの？」

B「飲むよ。だって前者の期待値は5億円じゃない」

A「ええ？ ほんとう？ 自説を変えたくなくて、意地を張っているだけじゃないかなあ。ところで、Cさんはなんでロールズに賛成しないの？」

C「Aさんみたいなゴリゴリの確率論者は説得できないからだよ。無知のヴェールのもとで、みんなの意見が一致するわけがないよね」

A「うーん、このまえの授業で、^③相対的貧困率を習ったよね。^④大富豪と極貧のひとのあいだの格差が小さくなればなるほど、相対的貧困率は低くなるから、格差の小さな社会のほうが、いいんじゃないかな」

問1 会話文のx y zに入る数字をそれぞれアラビア数字で答えなさい。

問2 文章中の下線部①について、17世紀に存命した社会契約思想家の名前をひとり答えなさい。

問3 会話文中の下線部②について、Bがこの下線部②で主張していることは、文章中のロールズの考えによれば、成り立たない。その理由を、〈無知のヴェール〉という単語を必ず使って、50文字以内で述べなさい。

問4 会話文中の下線部③について、次の相対的貧困率の定義を読んだうえで、表1のような5つの世帯から成る社会の(1)等価可処分所得の中央値、(2)貧困線、(3)相対的貧困率をそれぞれ答えなさい。なお、各世帯はすべて、父母および子2人の計4名から成ると仮定する。

【定義】

等価可処分所得（世帯の可処分所得（総所得から一定の支出を除いたもの）を世帯人数の平方根で割った所得）の中央値の半分の「貧困線」と呼び、その貧困線未満の等価可処分所得しか得られていない世帯員（世帯を構成する各人）の割合を「相対的貧困率」と定義する。

表1

世帯名	サトウ	スズキ	タカハシ	タナカ	イトウ
世帯の等価可処分所得 (単位：日本円)	1 億	5000万	600万	300万	200万

問5 会話文中の下線部④について、問4で与えられた相対的貧困率の定義にしたがうかぎり、下線部④のAの発言は成り立たない。その理由を50文字以内で説明しなさい。

第2問

次の2つの【文章A】【文章B】を読んだうえで、以下の問1～問5に答えなさい。

【文章A】

正義をめぐる後世の議論を決定的に方向づける定式化を提供したのは、いうまでもなく、①アリストテレスの『ニコマコス倫理学』第五巻だった。その議論を素描しておこう。

アリストテレスが最初に提示する正義の定義とはこうである。「正義とは、すなわち、人びとをして正しいものごとを行なう性質^たのひとたらしめるような「状態（hexis）」、つまり、人びとをして正しきを行なわしめ、正しきを願望せしめるようなそうした「状態^い」の謂いである。「正しい」とは「適法的」ならびに「均等的」すなわち「過多をむさばらない」ことを意味している。

ところで、法は政治的共同体に属する「万人共通の功益」をめざしている。法はそのために、勇敢、節制、穏和等のさまざまな徳にかなった行為を命じる。したがって、適法的なひととは、これらの徳を兼ね備えたひとのことにほかならない。ただし、法が万人共通の功益をめざしており、正しいとは過多をむさばらないという意味であることからわかるように、ここにとりあげられる徳は「αな関係」において発揮されるものでなくてはならない。だから、②正義にかなったひと、正しいひととは、自分が所有するさまざまな徳を「他に対しても働かせることのできるひとであって、たんに自分自身だけにとどまらない」性格の持ち主を指す。

こうして、アリストテレスが最初に語る正義とは徳のひとつであって、それが正しい行為を行なう準備の整った状態、性格であるかぎりには徳と呼ばれ、その徳が他人と関連する行為のなかで発現されたときには正義と呼ばれる。

出典：品川哲彦『正義と境を接するもの：責任という原理とケアの倫理』（ナカニシヤ出版、2007年）（出題にあたって一部改変した）

【文章B】

孟子は人間の本性を善とする説でよく知られている。孟子がその説で言おうとしているのは、人間は生まれつき完全に善いということではなく、人間は道徳的感受性を備えて生まれ、その感受性のおかげで人間は有徳になる傾向をもつということである。具体的に言えば、③人間には徳の四つの「芽」（端（duan））が備わっていると孟子は主張する。

生まれつき人間に備わる道徳的な感受性や傾向性を記述するために「芽」という農業の比喻を用いることは、孟子の考え方の特徴として孤立したものでもなければ些細なものでもない。こういった比喻は、人間の発達の内容と構造と適切な道筋にかんする孟子の記述全体を通して見受けられる。たとえば、孟子は徳の芽の発育や発育不全を自然ではあるが偶然的な大麦の成長にたとえる。

このようなアナロジーを通じて孟子が示そうとしているのは、第一に、あらゆる人間は道徳面で成長する能力を平等にもっていること、第二に、道徳面での成長は人間にとって自然ではあるものの、そのためには傾注と努力が不可欠であること、第三に、環境、影響、傾注、努力の点での程度の違いを別にすれば、人はみな共通の道徳的目的へと向かう傾向をもつということである。

出典：フィリップ・J・アイヴァンホー「徳倫理学と中国の儒教の伝統」ダニエル・C・ラッセル（編）立花幸司（監訳）『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』（春秋社、2015年）（出題にあたって一部改変した）

問1 文章Aの下線部①について、アリストテレスの学問上の師であった古代ギリシャの哲学者の名前を、カタカナ4文字で答えなさい。

問2 文章Aの空欄αについて、これを埋める最も適切な語句は、次のうちどれか、次のア～エのなかからひとつ選びなさい。

- ア 対他的
- イ 排他的
- ウ 他律的
- エ 他責的

問3 文章Aの下線部②について、次のア～エのうち、アリストテレスの考えによれば正しいひととはいえない生徒が登場しているものをひとつ選び、その根拠を50文字以内で述べなさい。

- ア 野球部のエースの太郎さんは、自他ともに厳しい性格で、試合中の自分のミスに対しても他人のミスに対しても、ミーティングで必ず指摘している。
- イ 登山部の主将の二郎さんは、他の部員よりも体力があり、大きな荷物を運ぶことができるので、ケガをした部員がいるときは、代わりに荷物を持ってあげることが多い。
- ウ 文芸部の部長の三郎さんは、年上に対しても自分の考えをはっきりと告げるタイプであり、顧問の教員が適切な指導をしないときは、クレームをつけることもある。
- エ 水泳部のキャプテンの四郎さんは、ストイックなスポーツ選手で、上達するかしないかは自己責任であるというモットーのもと、日々のトレーニングを各部員に放任している。

問4 文章Bの下線部③について、人間には生まれながらに徳の性質が備わっているという考え方を、何説というか。漢字3文字（「説」を含む。）で答えなさい。

問5 化学的去勢という用語に関する次の解説を読んだうえで、(1)化学的去勢に本人の同意を必要とする制度と、(2)本人の同意を必要としない制度とを区別しながら、文章Bの孟子の立場にもとづいて(1)(2)の制度をそれぞれ肯定的または否定的に、合わせて300文字以内で評価しなさい。

現在、薬物の投与により性犯罪者の性的欲求や性衝動の度合いを低下させる治療が欧米諸国を含む多くの地域で実施されている。このような治療手法は、化学的去勢（chemical castration）、ホルモン療法（hormone treatment）、薬物療法（drug treatment）などと呼称されるが、基本的には、薬物を用いて性犯罪者の男性ホルモンの水準を低下させる治療を指す。……（中略）……化学的去勢は、それを刑事的な制裁と見るか性犯罪者の治療の1つと見るかの2通りに分けて考えることができる。多くの場合、化学的去勢は本人の同意に基づく任意の治療として行われる。一方で、ポーランドや韓国、アメリカの一部の州などでは裁判所が化学的去勢の実施を科すことができ、また、そのうちカリフォルニア州やフロリダ州等においては、性犯罪の再犯を犯した者に対して、薬物を用いた治療（すなわち化学的去勢）を必要的に受けさせることが定められている。

出典：小沢春希「性犯罪者の化学的去勢をめぐる現状と課題」レファレンス824号25-47頁（2019年、国立国会図書館）

問題はここまでです